

外部評価委員会による評価	学校からのコメント及び次年度に向けての方向性
<p>I 学校における自己評価活動の取組み</p> <p>I. 1 『学校経営・運営ビジョン』と校内組織体制について</p> <p>学校経営・運営ビジョンについては、多様な個性に合った目標の設定と、その目標実現に向けた指導、そして、学習、生活、進路面での自立に向けた取組み等、社会や学校の状況を十分に理解し、重要な課題も明らかになっており、一つひとつの活動に結び付けているように思われる。</p> <p>年間計画に関しては、重要な課題について、アンケートの集計・集約だけに終わることなく、目に見える表面的事象の振り返りから、事象がなぜ起きたのかといった原因を追究するための対話をを行い、理想とする姿にどの程度近づいているのかを考えることも有効であると思われる。</p>	<p>18年度以降保護者及び生徒による学校評価を実施し、課題発見に努めている。特に運営委員会に評価委員会の機能をもたせた上、次年度の重点努力事項となるよう全教職員の共通理解を図っている。この過程を経て次年度に向けた課題解決の諸方策を検討しているところである。</p> <p>『学校経営・運営ビジョン』と各部、各学年、各教科の実践目標とが完全な整合性がとれるよう、次年度に向けさらに工夫改善を図り、目標達成に努めたい。</p>
<p>I. 2 『学校経営・運営ビジョン』の展開と自己評価について</p> <p>成果を上げていくための重要な要因として、教職員の協働とあったが、それを達成するための手段を明らかにしていくことが重要だと思われる。如何に一人ひとりの貢献意欲を高められるのか課題であり、高まったときには、どんな姿なのか、高めるためにどのような対話の方法や機会を通して行うのか、このような質問に対して考え実行することが効果的であると思われる。目的を共有し、教職員がどんな学校にしたいのか、どんな生徒を育てたいのか、その結果自分自身がどのようになりたいのかなど、未来について校長を始め管理職の方が聴いていく必要があると思う。</p>	<p>目標管理制度下における教職員の自己目標設定において『学校経営・運営ビジョン』との重要な関わりを認識し、目標達成に向けた日常の実践取組みを、意欲的に行っていくための面談機会を増やし、PDCAサイクルが効果的かつ効率的に展開していける場づくりを積極的に推進していきたい。さらに、学校側の思いを直接、生徒・保護者に伝えるため、各学期当初における面接週間の設定や、各学期末に学年PTAの計画的な開催等、生徒保護者の意識改革も図っていきたい。</p>
<p>I. 3 広報とアンケート等について</p> <p>アンケートの前段で各項目について丁寧に説明がされているので、評価表にある数字を超えた、本校の取組みがよくわかる。保護者のアンケートの項目は、保護者から見た子ども達の状態と保護者が感じる学校の姿の二つを聞いている。生徒や教職員も同様に感じられた。一つ一つの設問の良し悪しではなく、例えば、学校に明るく通っているかを3者に聞くことによって、3つの視点からの子どもの姿が浮かび上がってくると思われる。誰に何を聞くのかを考えるときに、アンケートを通して何を知りたいのかを明らかにして、視点を作成すると学校の状態や生徒の様子が明らかになると思われる。</p> <p>生徒・保護者等へのアンケート結果の公表については、結果は生徒や保護者に文書、インターネットを通じて公表していると推察する。一方で、集計の結果を渡されただけでは、このアンケートの結果を学校がどのように捉え、どのような方向性・改善を行っていかようと考えているのか分からない。この公表は、何が目的で、どのような結果を狙い、どのような効果を望んでいるのかを明らかにしないままでは、公表したという事実しか残らないので残念に思う。</p> <p>今年は学園祭があり、学校の取組みが地域へ発信され、保護者、地域住民が学校の姿を広く理解したものと認識している。</p>	<p>前年度同様、保護者に対しては1学期当初のPTA総会、各学期末の学年PTAの席上で具体的な情報提供を行ってきた。また、PTA会報(1学期末と卒業式前発行)の効果的活用を行った。ホームページ上にも結果等をできるだけ早く掲載した。さらに、町内の広報の活用も考慮したい。</p> <p>次年度は地域住民へのアンケート実施も予定し、本校改革の一助としたい。</p> <p>19年度までは、保護者アンケートについては2学期末の学年PTA時に実施してきたが、出席者が限られ評価の偏りが懸念されたので、20年度は生徒の手を介し、保護者全員にアンケートを実施し、評価の確度をあげる取り組みを行った。次年度以降も同様に対応したい。</p>

I. 4 取組み状況全体について

ここ数年の質の高い生徒指導により、校内の「雰囲気」がかなり改善されたことを生徒や保護者、教職員も同じように感じていることから、学校満足度があがっていることが確認された。取組みの結果、学校が良くなってきていると生徒、保護者や教職員が感じていることは、成果が感じられるレベルまで来たということ。一方で、改善状況への満足度からか、やや現状満足・高め合いが弱くなってきたと感じられた。それは、目標としている点に近づき、課題となるギャップが小さくなってきたから。改めて目的から目標を設定し、ギャップを広げることで次の課題が見えてくると思われる。

本校の取組みについての理解が毎年少しずつ深まってきており、以前に比べ保護者等からの評価も良好な傾向で推移してきていると思われる。しかし、左記評価に記載されているように、現状満足では停滞しか生まれず、より良く発展していくためには常により高い目標を目指し、そのための課題を解決していくための、意識改革が必要であると痛感する次第である。常に、教職員全員が問題意識を持って生徒の知徳体各能力向上に向けより努力していける場づくりに向けた取組みを実践していきたい。

生徒に向けては全校集会や始業式、終業式さらに学校行事等の機会を活用しできるだけ具体的平易な話をし、生徒自身が取組むべき課題等について理解させるよう工夫改善に努めてきたが、今後もより効果的に実践していく必要があると考えられる。

外部評価委員会による評価	学校からのコメント及び次年度に向けての方向性
<p>II 自己評価活動と学校評価全体への学校の組織的な取組みとその改善</p> <p>II. 1 評価活動全体について</p> <p>生徒、保護者、教職員ともに、常に地域を意識した活動をしていることから、目標の共有はうまくいっていると感じた。</p> <p>II. 2 重点事項の組織的な取組みとその改善状況について</p> <p>学校評価委員会は、運営委員会を兼ねているので、スムーズな運営が行われたと思う。次は、一歩踏み込んで、アンケートの集約の結果や教職員の肌感覚などを照らし合わせ、学校の目指している姿に対する現在の位置を把握する取組みを望む。このことについては、評価委員会では実際に話していると思われるので、学校の全体の自己評価（全体の雰囲気、様子、進捗などのまとめ）を行って欲しい。</p>	<p>学校からのコメント及び次年度に向けての方向性</p> <p>P T A役員、同窓会役員の方々の学校への協力姿勢には常に頭が下がる思いである。この土壌が背景になれば、学校教育目標達成は全く画餅となってしまうので、当然ながら今後とも保護者、地域とのより良好な連携を保てる取組みを実践していかなければならない。</p> <p>評価記載にあるとおり、全体的に良好な評価が保護者等から得られても、個別に詳細に分析するとまだまだ、解決すべき課題は多い。評価委員会さらに職員協議会での徹底的な話し合いを行い、さらなる本校発展のための取組み課題を焦点化し、解決の方策を模索し教職員がそれぞれの価値観を持ちながらも学校全体が、同じベクトルを向いて目標達成に進めるようにしたい。</p>
<p>III その他</p> <p>III. 1 地域社会との連携についての更なる活動への展開へのアドバイス</p> <p>地域社会は、もっと街に出て欲しいと感じているようだ。特に近隣の学校が地域との繋がりのある活動が大きいと感じている。貴校が行う地域社会への活動とはなにか、この当たり前の問いを考えることが大切である。しかし、優先順位を明確にして、本当にこの活動の順位が高いのか、高いのであれば重要課題である。そうでないならば本当に重要な課題から取組むべきだと思われる。たとえば、近くにある高校では、野菜など「もの」をもって地域との連携をはかっているが、差別化のため更なるボランティア活動（清掃、町の催し物への参加など）の充実や、生徒の視点からの町の様子（感想や様々な提案）をWEBで配信することで、地域連携をはかることが良いと思う。</p> <p>III. 2 開かれた学校づくりについての更なる活動への展開へのアドバイス</p> <p>開かれた学校づくりにも段階がある。情報発信、学校教育への参加、子どもたちが自信を持って地域で自分の学校を誇れるなど。自分たちのステップが現在どこにあるのかを明らかにして取組むことで効果が高まると思われる。</p> <p>III. 3 その他</p> <p>生徒、保護者、教職員全てが居心地のよさを感じている。それゆえに、生活面には「けじめ」を学習、部活面には「競争原理」を取り入れていくことで、次の坂下高校のステップアップがあるものとする。</p>	<p>町主導のボランティア活動への生徒の登録参加を積極的に働きかけ、実践取組みへの協力体制を確立した。また、警察署生活安全課や補導員組織との協力体制を確立し、生徒の問題行動抑止を図ってきている。次年度もこの協力体制を継続発展させたい。また、生徒会主体での駅周辺の清掃活動、全校生徒による町内一斉清掃も実施したが、この種の広報活動は行っていない。左記評価にあるように、今後は地域との連携を図った清掃活動等の取組みを行っていく必要があると考えられる。</p> <p>今年度も学校開放講座を実施した。芸術（音楽・美術）は、地域の一般の人々を対象として行い、多くの参加者からの好評を得た。また、地域の中学生徒を対象として、バスケットボール・陸上競技力向上講座を実施し、地域の中学生徒のスポーツに対する興味関心の向上を図った。次年度も、より多くの中学生の参加を得られるよう日程上の工夫を加えたい。</p> <p>左記評価を参考とし、より上位の段階（学力、競技力向上）を目指した取組みが必要である。そのためには、継続的な日常の弛まぬ積み重ね（小さな努力をきちんと毎日継続する）を実践していける生徒づくりを目標に、教職員のさらなる努力に期待したい。</p>